

男女共同参画

「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成できない人の割合が増加

企画課 男女共同参画推進室 ☎ 23-13917

平成30年2月に、市が実施した「男女共同参画に関する市民アンケート」で、男女の固定的性別役割分担意識を表す「男は仕事、女は家庭」という考え方について尋ねたところ、「賛成できない」と「どちらかといえば賛成できない」の割合が、前回調査（H25）の53・7%から61・4%に上昇し、性別役割分担意識の変化がうかがえる結果となりました。この値は全国調査の49・4%（H28）と比較しても、高い水準となっています。

一方で、「男女の地位の平等感」について尋ねたところ、地域活動や職場などさまざまな場面で、男性が優位だと感じている人が多いという結果が出ました。この質問では、前回調査から大きな変化が見られず、男女平等を実感できる環境に

至っていないことが分かります。中でも、「社会通念・慣習・しきたり」や「政治の場」では、7割以上の人が、男性が優位だと感じています。

性別に関わらず、地域や職場で活躍できる社会の実現には、家庭での役割の多くを女性が担っている実態や、根深く残る慣習などの環境を改善することが必要です。そのためには、男女共同参画の意識の啓発に加え、子育てや介護を支援する環境や労働条件の整備などが欠かせません。

市では、平成30年度に策定する「第2次観音寺市男女共同参画計画」に今回の調査結果を反映し、だれもが個性と能力を発揮できる社会を目指した取り組みを進めることにしています。

「男は仕事、女は家庭」という考え方について



男女の地位の平等感



※回答率[%]は小数点第2位を四捨五入しており、比率の数値の合計が100%にならない場合があります。